

事務所 〒690-0874 松江市中原町167-1-3F TEL 21-6143 FAX 31-8985 HP: http://www.matsue-rotary.jp E-mail: office@matsue-rotary.jp

第 3409 回例会 (令和 5 年12月13日・水)

今週のプログラム

12月13日(水) ゲストスピーチ 「人口最小県、最小町からの地球課題解決を目指す『プラネタリーヘルス地域モデルの構築』」 tenrai(株) 代表取締役 医師 桐村里紗氏

次週のプログラム

12月20日(水) 「家族忘年会」 例会：18時30分～ 忘年会：例会終了後～20時50分(予定)

結婚月

森岡 隆行会員 2日 勝谷 哲也会員 12日

2023年12月～2024年1月の予定(★衛星クラブ含む)

- 12月13日(水) 年次総会
12月20日(水) 家族忘年会 平安 18時30分～ 昼の例会なし
※ 12月27日(水) 休会
※ 1月3日(水) 休会
1月10日(水) 新年初例会 定例理事会
★ 1月17日(水) 衛星クラブ単独例会 楽山窯訪問 10時30分～13時(予定)
1月30日(火) 松江4クラブ合同例会 ホスト：松江しんじ湖RC 例会 18時30分～19時15分(予定) 懇親会 19時30分～20時50分(予定)

●例会変更のお知らせ

Table with 3 columns: 月日, クラブ名, 受付場所. Lists meeting changes from Dec 13 to Jan 30.

第3408回例会記録

令和 5 年12月 6 日 (水・晴れ時々曇り)

Table with 6 columns: 会員数(人), 出席者数(人), 欠席者数(人), 出席率(%), 前々回補正(%).

メーキャップ：今井、山崎、和田、渡辺(松江南)、長谷川、栗井(松江しんじ湖)、藤原(理事会) 木村、友塚、中司(地区大会)

会務報告

佐藤尚士会長

- ゲストスピーカー紹介 ロングブラックパートナーズ(株) 取締役 岡本圭介様
● 米山奨学生 李 展雲さん 紹介 奨学金お渡し
● 衛星クラブ2名出席
● 細田重雄会員に旭日中綬章受章のお祝い贈呈

木村俊一郎幹事

- 本日、下期会費請求書、来年1月30日(火)開催の松江4クラブ合同例会の案内を配付。ホストは松江しんじ湖クラブです。

出欠メ切は1月5日(金)、事務局までお知らせ下さい。

2023年9月1日以降入会の方は紹介がありますのでお出かけ下さい。

- ガバナー事務所より、シンガポール国際大会への飛行機の残席が少なくなってきたと連絡がありましたので、希望の方は早めに手続きを行ってください。
● 次週12月13日(水) 年次総会開催。
● 本日、例会終了後、定例理事会開催。
● 事務局は12月7日、8日休ませて頂きますので緊急連絡は幹事まで、急ぎでない方は事務局までメールをお願い致します。

## 委員会報告

● 親睦・出席委員会  
出席報告

友塚順子委員長

## プログラム

「人材×デジタルの種  
—地域で取り組むデジタル化と  
チーム主義が20年後の地域の未来を創る—」  
ロングブラックパートナーズ(株) 取締役 おかもとけいすけ 岡本圭介氏



## ニコニコ箱

28,000 円

細田 (この度、旭日中綬章を受章致しましたが、これも偏に皆さまのおかげです。心から感謝申し上げます。)

小林、原田、木村 (岡本氏のスピーチに。)

細田、舟越 (誕生日)

後藤 (出席100%賞)

庄谷 (結婚月)

井上、白水 (入会月)

ベストメッセージ賞：該当者なし

司会 棚橋学会場監督

ひとこと  
随想

## 黄泉比良坂のこと



いばら ます と  
茨木 啓 人

先日、NHKの「72時間」という番組で東出雲町の黄泉比良坂よもつひらさかが取り上げられました。松江の皆様にとってはお馴染みの場所かと存じますが、「古事記」の中で、イザナギ命が黄泉の国への入り口をふさぐために千引の岩を置いたことから、この世とあの世を分ける境界になったとされている場所です。

「72時間」は毎回ある場所にフォーカスを当て、そこに集まるさまざまな人々の日常やエピソードを追う番組です。同回では黄泉比良坂を訪れた方の人間模様や、家族や友人といった大切な人を亡くした方が、伝えきれなかった想いや感謝などを綴った手紙を「天国への手紙」と名付けられた手作りの木製ポストに投函する様子が放送されました。

小生はこの夏に家族と共に松江に参って以来、島根の皆様の温かさに助けられながら、お陰様で

公私共に充実した日々を送らせていただいています。唯一、春先に父が逝って間もなく父が眠る鎌倉を離れることになったことから、なかなか墓参できないことだけが気に掛かっていましたところ、出張で来島した会社の先輩との会話から偶然、同地について知るようになりました。

それからというもの、自宅から自転車で30分程と朝の運動にちょうどよい距離ということもあり、自身の近況や息子の成長などを報告しに訪れるようになりました。父に手紙を書くことなど以前はありませんでしたので、池を眺め森のざわめきを聞きながら言葉を綴るうちに、同地の伝説や独特な雰囲気と相俟って不思議な感覚に包まれます。

思い出と現実、喜びと悲しみ、生と死、過去と現在が交錯する黄泉比良坂は、手紙を通じて父との繋がりを感じられる、小生にとって大切な場所の一つになっています。(移動通信事業)



千引の岩と天国への手紙 (ポスト)



台湾赴任時代からの相棒の自転車と